

沖縄伊是名集落における祭礼時の集落空間に関する研究

－旧暦六月豊年祭に着目して－

日大生産工（学部）○福田 奎也

日大生産工（院） 石井 孝宜 日大生産工（院） 高橋 祐太

日大生産工（研究員）片岡 菜苗子 日大生産工 篠崎 健一

1. はじめに

沖縄本島北方の離島、伊是名島の南端に位置する伊是名集落は、風土に根ざした伝統的な民家や、人々の生活が今なお残る集落である（図1）。

本研究は、生活と結びつきの強い、集落の祭礼に着目し、祭礼時の人々の語りから、集落空間の特徴を導き出したい。本稿は、空間図式研究会¹⁾が行った、伊是名集落の調査、研究の上にあり、筆者が今年豊年祭に参加し、体験、観察、収集した物事を加えて考察する。

2. 旧暦六月豊年祭

伊是名集落の豊年祭は旧暦六月二十五日に催される。集落は16の班に区分されており、豊年祭の際は、公民館を基準に東（アガリ）、西（イリ）に分かれる。豊年祭は、神が宿る拝所と、その年に慶事のあった家などを廻り歌い踊るムラガーイや、ウンナーと呼ばれる、豊年を祝い、豊年を祈願する綱引きなどからなる。

3. 研究の方法

筆者らは、伊是名集落の2015年²⁾及び2016年の旧暦六月豊年祭に参加した。豊年祭における準備（ウンナーで使われる大綱の綱結）、当日のムラガーイ・ウンナーなどや片付け（翌日、自主的に豊年祭で出た空き缶回収など）、交流会（公民館で豊年祭のビデオデータを見ながらの交流など）などを通して、集落の人々から祭礼についての語りを収集した。祭礼時の集落空間を調査するためにルート図を作成し、収集した語りを分析した。

4. ムラガーイの東西ルート比較

2016年の豊年祭におけるムラガーイのルートを図2に示す。東、西はともに公民館から出発し、拝所や民家などを廻り、銘苅家前でイチャエー（東、西が行逢うこと）をする。その後、東は西を、西は東を廻り、再びイチャエーをして公民館へ戻る。東と西は敵であ



Study on the Village Space at the Time of the Festival in Izena Village, Okinawa
－ Focusing on the Old Calendar June Harvest Festival －

Keiya FUKUDA, Takanori ISHII, Yuta TAKAHASHI, Nanako KATAOKA and Kenichi SHINOZAKI

りながらも、最後はお互いに敵方のエリアを廻る。東は集落内を計13ヶ所（イチャエーは含めない）廻り、そのうち拝所は6ヶ所である。これに対して西は、集落内を計14ヶ所廻っているが、拝所は0ヶ所である。

5. 集落空間の特徴を祭礼時の語りから導く

2015年及び2016年の祭礼時に収集した語りのビデオデータとボイスデータを文字に起こし、テキスト化した。語りは、祭礼当日や前後の準備、片付け、交流会から得られたものであり、その全てが祭礼について語っているものではない。そのため、テキストデータの中から祭礼についての語りを抽出した（図3）。抽出した語りと調査から得られたムラガーイのルート比較の結果を用いて集落空間の特徴を考察した。

1) 拝所が持つ空間の距離

集落の北東には拝所が多く存在することや、人々が普段、拝所に近寄ることは少ないことが語られた（図3, [B-2,5,6,7]）。集落において、先祖を敬う暮らしの意識（図3, [B-2,4]）が北東に表れている拝所は、人々にとって大切な空間であり、普段は遠く、祭礼時は近い空間である。

2) 銘苅家の求心性

銘苅家は尚円王（琉球王国第二尚氏開祖）と関係の深い旧家であり、伝統的で格式のある住宅である。集落の中央にある公民館は、祭礼時の中心となるが、北東にある銘苅家は、ムラガーイで東西に分かれ、最後に銘苅家前でイチャエーをすることから、集落空間の中での求心性を持つ（図3, [A-7], [B-2,5]）。

3) 東西の曖昧な境界

集落の人口減少と稲作の衰退について多く語られた（図3, [A-2,3,6,8,11,12], [B-8,9]）。集落における祭礼の継承、実行に関わる問題である。

祭礼時、集落は東と西に分かれるが、実際には、はっきりとした境界はない。それは集落の人口が減っていく度に、祭礼時の東西の境を変えていくという語りの事実が存在すること、また、ムラガーイの際に東西がお互いのエリアを廻る事実があるからである。祭礼時に集落を東西に二分して境界を分ける目的ではなく、むしろ集落内が一つにまとまろうとする意識があるのだと考える。

6. まとめ

生活との関係の深い旧暦六月豊年祭時の集落を調査し、人々の語りを収集し分析することで、集落空間の特徴を示した。

参考文献

- [1] 仲田栄二 他、伊是名村史 上巻（島のあゆみ）、伊是名村、(1989)
[2] 津波高志 他、伊是名村史 下巻（島の民俗と生活）、伊是名村、(1989)

注釈

- 1) 東京工業大学藤井晴行研究室・日本大学生産工学部篠崎健一研究室共同主催の建築空間図式を探索する研究会である。
2) 2015年の豊年祭におけるデータは、空間図式研究会が調査したデータを筆者が分析し、本稿で使用した。

2015.8.6 - 8.9 [A]

- ・両方で8班ずつ分かれるさ。[1]
- ・人口が多い時は、この公民館の、この真ん中の通りを境に、西と東に分かれとったんだけど、人口がだんだんこっちの方が減るのが、あの、多くなってるから、こっちはもう公民館から前には、あの一、比較的若い集落なわけ。こっちは旧集落だから。[2]
- ・要するに前は、2期作まで作らんとあんま食べれなかったんで、1期作だけでも十分に食べれるようになってきたからじゃないかね。それもあるかもしれんや。2期作だったらもうそろそろまた植え付けせんといかんし。田んぼが寝る時間が少ないさ。だから今こんなにして藁として残るのも少ないさ。あの、刈り上げ機で全部この尻尾みたいに全部俺たちは刈らん。だからこの藁自体がもう少なくなっちゃってる。[3]
- ・この集落に16の班があるんですよ。で班ごとに、1つの綱を、約30mくらい。今日しとるみたいに。[4]
- ・これ2時間くらいで作って、で、全体で16個作るから、これを8個にまた東西に輪かして、束ねて。8個ずつ束ねて、雄と雌に合体させる。で、束ねる時には、2つ、2つ一緒に束ねて。で、8個に集めたら連結するの。で、補強するわけ。補強して。で、一回やれば8個全部まとめて縛る。[5]
- ・昔はね、青年が、青年たちがね。1週間かけて全部。今の倍ぐらい。今、今ね、16班で16本ですよ。えー、これをね2本。だからね、16の2倍。だから、あの、こんな大きかったんですよ。今はこんな小さいけど。それでまだ引く張る人がいっぱいいたんですよ。[6]
- ・向こうとこう、あの一、銘苅家行って交差するから、間違えて向こうについて行くなよ。最後は銘苅家だから。そこの後と側で交差して、で、イリンドウ側はこっち側で戻ってくる。[7]
- ・だからみんな全員参加型ですよ。今、いや、最近東側が人口が多いんですよ。で、西側が人口少なくなってる。[8]
- ・あの一、旧暦の8月の豊年祭とは違う。これは、あの一、本当の作物の豊年祭。だから2回あるんですよ。豊年祭は。ここは、あの、2期作でしょ。もともと。稲作。2期獲るんですよ。で、採った後にこれやるんですよ。で、植えた後ですから。あと、ちょっと暇っていうか、いや、遊ぶ。豊穀豊穰だからね。[9]
- ・今こういうところ田んぼだった。川原があって田んぼだったんですよ。昔は。でも、あの、蘇鉄の川があるんですよ。あー、蘇鉄が今生えてるですね。その下に今、川があるわけ。小さな堀があるでしょ？川があんだけど、水がちょっと湧くところが。あそこで洗濯物したり、子供がジャボジャボ浴びたりっていうのがあったんですよ。今は暗渠としては今、拝みだけはやろうと。[10]
- ・この島はほとんど米だったわけよ。昔は。そして米の一番の繁忙期、あの忙しい時期を、今の時期ね。あの、肥培管理しとって、その暇な期間に綱引きと豊年祭とまた、あの一、踊り場。ずっと祭りだらけだった。7月8日は。[11]
- ・だんだんもう高齢化してよ。普通はこっから、この分かれてだんだんね、もう、向こうが少ないから道を分けていった。[12]

2016.7.29 - 8.1 [B]

- ・知らない。うん。タクも分からんよね？アガリンドウの。回ってるところは把握してるけど、全部は見たことないから。[1]
- ・公民館から後ろが、大雄把に言ったら屋敷が全部綺麗なのは、銘苅家も含めてだけど、屋敷も立派、門構えも立派なのはみんな本家だから。もともと先代の家があって、公民館の前は分家。元詰め。元の家。神屋っていうのは屋敷のなかにある神屋ってこと。要は、仏壇でことになるわけ。屋敷の中にある仏壇、神屋っていうのは、ある意味由緒正しい、伊是名島に移民してきた当時から始まっているようなもんだよっていう数えの家。こっちは大昔は無人島さ。首里王がそうやって開拓してきて、国頭っていう地域の間切り、間切りっていうのは大きい地区。で、その間切りで派遣されて離島開拓しなさいね、の始まりの民族の頭とも呼ぶわけ。神屋敷の一番この初代っていうの。だから由緒正しき、あのこの原点の祖先はいますよっていう意味。[2]
- ・基本的にウンナーのときは子供産まれたり、あの、商売やっておうちだったり、祝い事があるおうちが。だから本当はね伊是名酒造もなんだけど、今回は俺がもうこっちで酒を売ってる言ったから人がいいから。ちょっと外してもらったんですよ。[3]
- ・このウンナーは要するにもう、綱引きの、もう、ウンナーっていうこの方言でいうと綱、綱を引くって言う。綱を引いて、まあ、豊年みたいない感じで。で、あの8月豊年祭は2日あって、1日はまたこのなんっていう、この1年間ありがとうございましたっていうので、ウートートーして。翌日はまたこの後1年もまた、よろしく願いますねってまたお願いするっていう意味合いがあるんだ。また青年会がああ、何か所から、6か所、この神屋、神屋っていうのはウートートーするところ。ウガンジュ（拝所）を、青年会がみんな回って、一曲ずつ歌って。集落のなかで。ちっちゃいウートートーするところとかあるじゃないですか。あつちは青年会が回って、三線持って、酒持って、青年会がみんなであれ、一曲歌って。で、酒みんな飲んで、よろしく願いますって言うて。[4]
- ・こっちはね、みんな引越して神屋なんですよ。伊是名のね、神屋、ウェージャナシ。ウェージャナシじゃねえや。こっちは、なんていうの、上原だからえーつと、シザヌヤ。こー一番です。要するに、昔はですねこちらから、公民館から後ろの方に集落があったらしいんですよ。これがシーザヌヤー。そのまた東の方に伊是名ヒヌカンっていうのがある。銘苅家の前の、要するに、えーつと、昔からノロの。要するに神屋に囲まれているのが銘苅家なんですよ。[5]
- ・アガリンドウは神屋敷がたくさんあるんですよ。だから集落がもうこっちの方からこの辺一体がもう昔の集落で。[6]
- ・普段はもうほとんど入らないですよ。その前にもう今年は行事をしますよって、区長さんの皆様に前に知らせをするわけですよ。だから綺麗に、その日だけはもうスルッと入ってから踊りますよ。普段からは、まあ、入らないこともないけども。まあ一応は拝所ですから、まあ商売の方々に来てからお願ひしたりみたいなことはしませんけど。[7]
- ・これはね、まあこれはあの、水稻農家。稲を作ってる農家。今は、そういう農家も少なくなってきたんですよ。[8]
- ・昔はですね、ほとんどお家がみんな稲作してたものですから、ほとんどのお家みんな回りおったんですよ。今は稲作してるのが、うちの集落でも三農家かな。アガリはね、一軒しかないんですよ。いやその三軒はもう行かないと。その三軒のおかげでその縄も提供されて、綱引きの縄も作れるようになりますからね。[9]

図 3 集落の人々から収集した祭礼についての語り